



戦中のある時、何挺かの銃を隠すため祖父の家から私の家に運んでいました。私たちが歩いているとドイツの飛行機が何機か飛んで来たのです。銃は私のリュックサックから突き出ていましたが、私たちは走って大きな石の陰に隠れるより、その場にとどまり動かないことを決断しました。その決断は正しかったのです。別の時ですが、冬期に険しい山の下の方を歩いていた時、雪崩が起きたのです。とんでもなく危険でした。

**村山** 何かで読みましたが、あなたは高校時代にお兄さんと一緒にビジネスを営んでいたそうですね。

#### 若くしてビジネスを経験

**カブリ** 私には7歳上の兄がいて、一緒にした仕事は二つあります。最初に始めた事業は木を切り倒すことで、それから兄が小さな製材所を立ち上げ家具製造業者に売れる厚板を作りました。大した事業ではありませんでしたが、利益は上がりました。それから戦争が始まりました。戦争中ガソリンの代わりに木炭ガスが使われ、ガスの発生装置を乗用車やバスやトラックの後ろに搭載しましたが、私たちはその燃料用のブリケット（木を破砕し、乾燥させ小さな煉瓦状に圧縮したもの）を製造しました。それは良い経験でした。後に自分で事

業を始めて成功させ、利益を上げることができるという自信を与えてくれたからです。

**村山** それから大学に行き、物理を選びました。なぜですか？

**カブリ** 私は色々なことに興味がありました。心理学や哲学にさえ興味をもっていたのです。医学を勉強しようと思ったことさえあります。しかしそうしなかったのは物理が一番面白いことが分かったからです。物理学は多方面にわたり科学の基礎をなしています。私は物理と数学はいつも楽にこなせました。クラスには学生が7人しかいなかったのも、とても楽しかったですね。

**村山** その後アメリカへ渡ることを決心されたのですよね？

**カブリ** そうです。私の父はノルウェーに戻って母と結婚する前に13年間サンフランシスコに住んでいました。母の農場を引き継ぐことになり、結局そこで行き止まりになってしまったのです（笑い）。

**村山** なるほど。でもあなたはどこへ行くのも自由でした。

**カブリ** はい、そうでした。しかし、勿論当時アメリカに渡って働き、住みついた人たちがたくさんいました。父の姉はアメリカに行きましたが、永住せずに帰ってきました。私がやってくる直前に父の兄が亡くなりました。しかし、

村山 齊さんはカブリ数物連携宇宙研究機構の機構長で、カリフォルニア大学バークレー校の教授を兼務しています。



実のところ私がアメリカにきたのは、そのせいというわけではなく、別の理由でした。一つは物理学で、当時明らかにアメリカにはチャンスがありました。そしてカリフォルニアは一番気候の良いところで…

**村山** その組み合わせはものすごく魅力的でした。

**カブリ** その通りです。

**村山** あなたは、物理で、勿論事業への応用ですが、長いキャリアをおもちで、とても成功されましたね。そして財団を設立することを決心されました。この間の事情をもう少しお話しただけないでしょうか。そうしようと思いついた動機についても知りたいのですが。

#### 人類の長期に渡る利益のために

**カブリ** それについては、実際は随分長い間考えていました。単に事業を興して財産を作る以上のことをやりたいと思っていました。何か長期にわたる公益事業を手がけたいと思っていたのです。事業で大きな成功を収めたら財団を設立しようという構想を長年の間暖めていました。そして、2000年に事業を売却し、以前の夢を実現する機会が訪れました。それ以前からある程度の社会事業は始めていましたが、財団設立が具体化したのは事業の売却後のことです。

**村山** 多くの財団は直ちに効果

が現れるようなことに対して支援しようと思いますが、この点であなただの財団は全く異なっています。

**カブリ** 私は長期にわたる、遠い将来に対して重要なことに注意を向けることは難しいことだと常に考えてきました。基本的にはそれこそ私たちがしていることなのです。それこそ私たちが基礎科学を支援している理由です。

**村山** その点は全く頭が下がります。

**カブリ** 私たちは根気強くやっています。

**村山** 実に大したものです。あなたが支援対象として天体物理学、ナノサイエンス、神経科学、理論物理学の4分野を選ばれた理由についても少々興味があります。

**カブリ** 単にその分野が一番面白いと思ったからです。色々な面で革命的な発見、役に立つ発見が一番期待できる分野です。未来の予測は当たらないものなので、どんな役に立つのか最初から知ることは困難ですが、人類の役に立つことが数多く得られるであろうことを確信しています。人類の歴史は、自然と宇宙を理解しようと努力する歴史でもあります。そして、勿論物理学は大多数の科学の基礎であると思います。

**村山** 私も同じことを信じています(笑い)。次に、カブリ賞について少しお話しいただけますか。

**カブリ** カブリ賞は天体物理学、

ナノサイエンス、神経科学の3分野に与えられます。最も大きなものから最も小さなもの、最も複雑なものまで含んでいます。ナノサイエンスは非常に新しい分野ですが、信じ難いほどの可能性を有していると思います。脳は勿論最も複雑なシステムの一つですが、その理解についても進歩していて、実に興奮させられます。その研究からはすぐ役に立つものが生まれてくるでしょう。それから、宇宙について、その仕組みや起源、運命についてももっと研究を進めることも実に面白いと思います。

**村山** あなたは、カブリ研究所の運営について、細かいことには口をはさまない主義ですね。

**カブリ** その通りで、何をしなさいなどとは決して言うてはいけなさと信じています。私たちにできることは、カブリ研究所が成長し、成功し、最善の研究を行うことを支援することです。勿論、注目を集めることは大切なことです。なぜなら、十分注目を集めれば、勿論良い成果を上げてですが、ベストな研究者を惹きつけられるようになるからです。

**村山** 全く仰る通りです。

**カブリ** それが、研究者一般が注目されるように私たちが活動している理由の一つでして、なぜそうするかと言えば、私たちは科学を支援しており、生活水準と私たちの健康と幸福を増進させた科学の過去の実績を信頼している

からです。

**村山** 今週のイベントに話を戻しますが、一番重要だったことは何でしょうか?総理大臣に会われたことでしょうか?

#### とても楽しめたカブリ IPMU 記念イベント

**カブリ** 総理大臣にお会いしたことはとても嬉しいことでした。総理に歓迎していただき、実にご名譽なことと感謝しています。科学に興味をお持ちで、また私たちの活動についても興味を持っていただきました。そして、現実を直視すれば科学への投資の大部分は政府によるものですから、これは極めて重要なことなのです。

**村山** 総理にお会いした後で一緒にシンポジウムに出ましたが、それはいかがでしたか?

**カブリ** とても良かったですね。こういうことを他のカブリ研究所と一緒にすることはとても大事だと思います。他の人と話すことにより、思いもよらないようなアイデアを得ることがあります。私たちは異なる学問分野を横断する形でこういうことを試みています。ナノサイエンスと神経科学では、間違いなくどちらの研究所でもなくその中間で取り組むべきことが多々ありました。計算機能力といったような問題は全ての研究所が興味を持つでしょうし、確かに天体物理学にとっても共通する問題です。



**村山** 全くそのとおりです。異なるアイデアをもつ人たち、ひょっとすると同じ問題に対して違う意見さえ持っていたり、全く異なるアプローチをする人たちと会って話をすることで私はとても啓発されますし、実際同じ問題を違う方法やアプローチで考えてみることになります。ですから、シンポジウムや研究会で他の研究者と会うことは、勿論私たちにとって極めて重要なことです。そして、翌日は式典でした。式典の後で、あなたのスピーチに感動したと言ってきた人たちがたくさんいました。

**カブリ** そうですか。ありがとうございます。

**村山** あなたの話し方は雄弁なだけでなく、詩的な趣があって、多くの人たちを感動させました。

その日の午後の一般講演会でのあなたのスピーチも同じでした。後で数人が私に電子メールをよこして、あなたのスピーチがとても良かったと言ってきました。あなたの精神力と感情が全て現れていて、素晴らしいかと思います。

**カブリ** そう言っていただき、感謝します。

**村山** さて、そろそろ終わりの合図がありました。今回、遠路はるばるお出でいただき、また色々なところに行っていただいたことを再度感謝します。あなたご自身及びカブリ財団と私たちの研究機構の間で、これから長期間共に活動する素晴らしい関係を築くことを本当に楽しみにしています。

**カブリ** 今回は本当に楽しい旅行でした。あなたには特に感謝したいと思います。あなたは信じ

られないほど素晴らしい指導者で、同時に疲れ知らずの精力的な活動家で、何でもやり遂げてしまいます。あなたのリーダーシップのもとで、大きな業績が上がることを期待し、確信しています。

**村山** ありがとうございます。